

らと学生交換実施の合意の下、うち合わせを行った。2023 年 9 月には本学研究員 1 名を現地コーディネーターとして位置づけ、2023 年 11 月には本学より実務担当者が再度現地に赴き、現地コーディネーターならびにモナシュ大学担当教員らと学生交換期日、学習テーマ等の検討、大学内ならびに学生寮の視察を行った。その後、現地担当教員の異動ならびに担当者変更もあり 2024 年 1 月には、2024 年度の学生交換実施に向け、オンラインミーティングにて改めて担当者、学生交換期日、学習テーマ等に関して確認ならびに検討を行った。2024 年度早々にもオンラインミーティングを実施するなど、2025 年 11 月の同大学から本学への受入、2025 年 2-3 月での本学からの派遣実施を目処として調整を継続している。

2-4. ISL プログラム開発

ISL (Interprofessional Service Learning) は本 GRIP プログラムの中核である。3 つの部分から構成され、オンラインでの事前学習、パートナー大学所在地に渡航・滞在しての現地演習、オンラインでの事後学習となる。本項では主に、現地での演習であるフィールド演習について記述する。

2-4-1. フィールド演習の概要

GRIP プログラムでは渡航先の社会課題に焦点を当てる。参加学生が学習しやすいように教員からテーマを提示する。各国の GRIP プログラム担当教員や部署職員らが GRIP 推進室と検討しつつテーマを決定する。そのテーマに沿って、訪問施設や組織を選定し、組み合わせ、ブリーフィングの時間なども考慮し、スケジュールリングする。2023 年度の各国での学習テーマは以下の表の通りである。

表 9 各大学の参加学生の学習テーマと訪問施設・組織

Participants	Partner universities and location of on-site practice	Theme	Areas, organizations, facilities to visit/participate in
Chiba University students	Symbiosis International University (Pune, India)	Support for children and women in difficult circumstances	Village schools, NGOs supporting children and women in need
Chiba University students	University of Leicester (Leicester, UK)	Homelessness Support	Self-help groups, home care facilities, clinic, NPOs supporting people in need,
Symbiosis International University students And University of Leicester students	Chiba University (Chiba and Tokyo, Japan) <i>Students from the two universities formed three mixed teams. Participating students engaged in a field exercise on one of the three themes as a team.</i>	1. Homelessness Support	NPOs support people in need, visiting nursing stations, government labor and welfare centers
		2. Disaster preparedness	University hospital (disaster base hospital), home care facility for handicapped, town walking with app
		3. Building Community Social Capital	NGOs providing gathering places for residents, children, etc., exercise classes by residents

現地演習のスケジュール概要

現地到着後、オリエンテーションの後、学生は5人/チームを形成する。ULでは参加学生は5人の1チームのみ、学習テーマも一つだが、SIUには10人の学生が渡航するため、2チームを形成する。日本の千葉大学においては、UL学生5人およびSIU学生10人の計15名より両大学混合の3チームを形成する。1チームあたり1テーマとして、テーマを選定し、トピックに焦点化して、チームでの役割分担や情報共有などを行いつつ学習を行う。各チームは数カ所の組織や施設にて活動に参加し、最終日には各グループのテーマについて、学習目標 IPCP、社会課題解決、文化的対応力の3つに照らし学習成果を発表する。その時点で、教員や現地学生からのフィードバックを得る。さらに事後学習として、学生は相互に各発表についてフィードバックを行う。

学生交流

SIU、ULそして千葉大学において、GRIP参加学生が本来の学業に支障の無い程度にバディとなって、常に数人がプログラム活動に同行する。日本では、SIUおよびIL学生受入時に、派遣にて同大学を訪問した本学学生が同行する。同行する学生は英語にて、学習課題に関する自国の状況や公共交通機関の利用法等に関する説明や、自由時間には学生同士が自発的に調整を行い共に余暇時間を過ごすなど、学習活動から生活の支援等を行う。このように自国において受入学生の支援を行うことにより、渡航先のみならず自国においても学生交流および共同学習にて自国の社会課題等についても学習する機会となる。

2-5. ISL プログラム 派遣

表 1 に、派遣について、派遣先、人数、学習テーマ、期間等を示す。

2-5-1. 参加学生の概要

募集・選考の結果、参加学生は看護学部、看護学研究科、医学部、国際教養学部という昨年の参加学生の所属に加え、工学部、教育学部の所属であった。派遣先は学生の希望を優先しつつ、参加学生の学術的専門性が多様となるように配置した。SIUには10人、ULには5人の計15人を派遣した。

2-5-2. プログラム期間

表に示した通りである。最低でも8日間の学習日を確保し、派遣先大学や演習施設等の都合により、渡航期間が若干異なっている。